

「中間評価結果（平成17年度採択研究課題）」

番号	研究課題名	研究代表者	評価
	市民参画型道路計画体系の提案と道路網計画における対話技術の開発	東京工業大学大学院 教授 屋井 鉄雄	B

< 研究継続の妥当性評価 >

- ・ 研究開発要素を確認し、実務として行うべき部分と、研究として行う部分を明らかにしつつ、指摘事項に留意しながら、計画通り研究を継続することが妥当である。

< 今後の研究計画・方法への指摘事項 >

- ・ 「市民参画手法の検討」と「対話支援システムの検討」の具体的な関係性が明確でないため、両者の関係を例えばケース分けなどによって明示し、「対話支援システム」で開発するツールの特質を明確にしていきたい。
- ・ 我が国及び欧米の現状の課題を踏まえた対話支援システムの仮説設定を速やかにお願いしたい。

評価

- A：当初計画は順調に実施され、現行の努力を継続することによって目標達成が可能と評価される。
- B：当初目標を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意し、一層の努力が必要と判断される。
- C：このままでは当初目標を達成することは難しいと思われるので、評価者からの指摘事項に沿って、当初計画の適切な変更が必要と判断される。
- D：現在までの進捗状況に鑑み、今後の努力を待っても当初計画の達成は困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。